

平成 30 年度

学生によるオレンジリボン運動

静岡文化芸術大学 実施報告



実施主体 文化政策学科 心理学(小杉)ゼミ

実施内容 平成 30 年 11 月 3 日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

ゼミの演習として、児童虐待に関する現状や関連機関等の対応状況について、統計資料や文献、報道番組等の利用をもとに学習し、オレンジリボン運動の必要性について認識を深めた。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

大学祭では、オレンジリボンおよびグッズの配布、独自に作成した資料の配布、インタビュー調査をおこなった。インタビュー調査は、高校生から高齢者まで、118 名を対象に実施した。また、同じ日に、浜松市役所が主催する「はままつオレンジリボン運動キャンペーン」に参加し、街頭での啓発グッズの配布をおこなった。

③オレンジリボン運動を終えて…

インタビュー調査の結果、オレンジリボン運動の認知度は 13.2%、全国共通ダイヤル（189）の認知度は 9.7%と、昨年度と同様この地域での啓発運動の必要性を痛感した。

また、身近なところで虐待があった（らしい）と回答した人も 14.2%いた。この値は、昨年（20.0%）よりは低いが、事前学習からの予測よりも多く、虐待が私たちの身の回りで起こっていることを強く実感した。

今年度は、浜松市が行っている子育て支援ひろばの利用についても調べたが、全体の 27%の方、とくに 30~40 代のお母さんの多くが利用したことがあることがわかった。このような事業の利用がさらに広がることに期待したい（たとえば 20 代のお母さん）。

オレンジリボン運動に対しては、今年も多くの方に興味をもってもらえた。今年度の経験も踏まえ、この活動を次年度も継続したい。

